

コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	一般社団法人 ImapctHubKyoto 代表理事：浅井俊子
補助事業テーマ	Co-Living Kyoto
事業実施期間	令和 2年11月18日 ～ 令和3年 2月28日
事業の目的	<p>① まち全体を滞在の場と見立て、ユニークな京都滞在プログラムを提供する、地域循環型の“Co-Living”＝「コ・リビング」（地域シェアリング型滞在＝生活するように観光する）によるコミュニティ型観光エコシステムをつくる。</p> <p>② 利用者が京都の生活を魅力的に体験できる仕組みを、地域に住む人々が主体となって事業やビジネスとしてまわせるようにする。</p> <p>③ 全府的にコミュニティ型観光エコシステムをつなげることによって、移住したい、起業やビジネスの拠点を移転したいと考える人たちのきっかけを作る。</p>
事業の実績(成果)	<p>① 地域循環型 Co-Living（コ・リビング）プログラムをつくりました  <b>【実施した取り組み】</b>「住」「食」「会所」「体験」をパックとした中長期滞在型の「コ・リビング」プログラムを地域でさまざまな担い手が持ち寄ることで、サービスとして提供できるようにするプログラムをつくりました。  <b>【得られた成果】</b> 京都府内において11件のサービスや事業をつくりました  <b>【課題と対応策】</b> 地域の人々が持つアイデアをいかに消費者に対して提供可能なサービスやプロダクトへと自身の手で創発することの難しさが課題となりました。対応策として、②にあげる地域の方々がはじめられる手法づくりに取り組みました。</p> <p>② Co-Living（コ・リビング）プログラムを地域の方々がはじめられる手法づくりに取り組みました  <b>【実施した取り組み】</b>          新たに Co-Living で新たなサービスを府内で立ち上げる支援をする仕組みをつくりました。  <b>【得られた成果】</b> 府内各地の担い手が新たにプロジェクトづくりに参画、8件の今後事業化を推進する取り組みが生まれました  <b>【課題と対応策】</b> ①にあげた課題に対して、アイデアを再現可能ななかちで実現し、知ってもらうための複数の技能を地域のひとたちが持てるための仕組みを通じた機会づくりを行ないました。事業を創発するためにカタライザーを置き、伴走的に作り出す仕組みをつくることにより、地域で共創しやすい環境をつくりだしました。</p> <p>③ Co-Living のサービスや支援ための仕組みを通じて、ワーケーション、多地点居住、移住に結びつく関係人口化の接点を府内各地につくりました  <b>【実施した取り組み】</b> Co-Living 事業として地域との関係的滞在を求める旅行者や来訪者がその導入となれる窓口やサービス環境をつくりました  <b>【得られた成果】</b> ①と②の内より府内において5件のサービスや事業をつくり、3件の今後事業化を推進する取り組みが生まれました  <b>【課題と対応策】</b> 移住に対する取り組みが存在する一方で、ワーケーションや多地点居住、テレワークといった新たな滞在・関係型観光に対する対応や相談の場が顕在化していなかった。今回の取り組みを通じ、これらのニーズに対して相談できる環境を府内の複数の地域において作り出す取り組みを行なった</p>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Co-Living のプログラム内容をオンラインで公開、引き続き、府内における循環・交流型事業づくりの場として継続、発展させていきます Impact Hub Kyoto の Web サイト内で公開 <a href="https://kyoto.impacthub.net/">https://kyoto.impacthub.net/</a></li> <li>・ 地域の人々がはじめられる環境と府内各地と関係を持ちたい旅行者がつながれる環境をひとつのプログラムとして継続することにより、地域でつくり、地域で経済が循環する、観光分野の事業促進を継続、発展させます。</li> </ul>